青年部 かわら版

山形県建設業協会鶴岡支部
青年部広報誌
第37号
令和元年7月1日発行

魅力ある建設業を目指し

山形県建設業協会
鶴岡支部青年部
部　長
菅原　武士

新元号「令和」を迎え、皆様におかれましては日々ご活躍の事と心よりお喜び申し上げます。日頃は関係各位のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。昨年度に引き続き、鶴岡支部青年部十六代目部長を務めさせていただきます菅原武士です。皆様、今年度も引き続き、宜しくお願い致します。

さて、昨年6月に研修視察にて広島県を訪問しましたが、そのわずか1ヶ月後に「平成30年7月豪雨」が発生し、甚大な被害に見舞われました。また、今世紀最強といわれた台風21号が大阪を襲い、その後すぐ「北海道胆振東部地震」が発生するなど、日本のインフラに多大な損害をもたらしたことが記憶に新しいかと思われます。こうした「自然災害の脅威」を年々強く実感いたしますと共に、今後の防災・減災への備えに加え既存インフラの適切な予防保全の重要性と、地域を守り災害に強い国土づくりの担い手としての建設業の果たすべき役割はこれまで以上に大きいものがあると認識しております。その為にも、災害発生時における「BCP対策」いわゆる事業継続計画を、地元建設業者だからこそきちんと構築する必要性があると思います。そして、BCPを構築するにあたって不可欠なのが、建設業に限らず、全産業的に生産年齢人口の減少が進む中での担い手の確保であると考えます。個々の発注者のニーズや現場の施工条件等に応じて、現場に関わる様々な人材の創意工夫によって建設生産物を作りあげていく建設業が今後も成り立っていくためには、担い手確保等を通じ技術の継承が必要不可欠であります。これまで建設業はある意味での「雇用の受け皿」として個々の企業の取り組みだけで担い手を確保できた時代もありましたが、そのような時代は既に終わっており、今後は、建設業が生産年齢人口の減少という課題を克服して、経済成長等の制約要因となることなく、地域社会の未来づくりの一翼を担うことで若者に夢や希望を与える産業であり続けるために、個々の企業のより一層の取り組みに加え、業界全体や発注者・設計者、さらには地域など様々な主体との連携による取り組みが求められております。

当青年部の活動においては、昨年7月に行いました高校生就業促進事業「若手技術者との意見交換会」の際、建築科2年生33名に対しアンケート調査を行いました。その結果、就職希望90・9％のうち、建設業は93％でありました。県内就職希望が50％、県外希望は46％でしたが、建設業が地域社会の発展に貢献していると思うかの問いについては100％が思うとし、今後進路を選ぶうえで参考になったとの回答を100％いただきました。私達にとって、若者の雇用確保は10年後20年後の将来を見据えるうえで重要な課題であり、そのためにも青年部の活動である高校生の現場見学会、就業促進事業の意見交換会などにおいて建設業の重要性・やりがい・魅力を伝えていくことは大きな役割であり、今年度も積極的に活動を行っていく所存でございます。

今年度の青年部は、昨年度に引き続き31社での活動となります。日頃の青年部の活動をご理解・ご支援して頂き感謝しております。今の状況に甘んじる事なく事業を更に活性化し、皆様のご協力を賜りつつ今年度の活動を進めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、建設業協会の親会を初め、ご支援・ご協力を頂いております各関係機関の皆様に対し御礼を申し上げますと共に、平成から新元号「令和」に変わりました節目の年に、青年部ならではの柔軟な発想と若い力で、これまでの歴史・伝統を引き継ぎながら、今後も地域に根差した活動を進めていけるよう私も精一杯努めて参りますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りまよう宜しくお願い申し上げます。

平成30年度 高校生建設業就業促進事業報告

企画政策委員会
委員長　土岐　正行

今年度も高校生建設業就業促進事業といたしまして、建設業界における人材不足及び豊富な知識や経験を持つ熟練世代の高齢化、この様な背景のもと若手人材の就業促進・育成を目的として平成27年度より「若手人材就業促進事業」を実施し、〝魅力ある建設業〟を念頭に置いて広くＰＲ活動を行いました。

①高校生用ＰＲパンフレットのリニューアル。
②高校生用及び中学生用のＰＲパンフレット及びＰＲクリアホルダーを配布。
③一般の方々へのＰＲパネルを、イオン三川、庄内総合支庁等への掲示。
④鶴岡工業高等学校建築科２年生と職場体験学習及び意見交換会等の実施。

以上４つの活動を行いました。

高校生用ＰＲパンフレットＶｅｒ.２は、酒田支部青年部と合同で、親しみのある旧版のレイアウトは残しつつ、新しい写真及び文章等に入替えを行い、管内全ての中・高２年生にＰＲパンフレット・クリアホルダーを配布しました。

高校生との職場体験学習及び意見交換会は平成30年７月６日に鶴岡工業高等学校 建築科２年生32名の生徒と行いました。当日は、午前に現場見学及び水準測量実習を行い、午後からは、『若手就業者からのメッセージ』を題材に山形県・青年部現役技術者から講話をして頂き、最後に高校生と若手技術者との意見交換会という内容で行いました。特に、若手技術者との意見交換会は、高校生が就職に対して不安を抱いていることや聞きたいことに対し、青年部員が体験談を交えながら討議を行い、後のアンケート結果で高い評価を頂きました。

就業促進事業を通じて、地元建設業ならではの地域密着型での安全・安心の確保をはじめ、快適な生活を送るための社会インフラの整備、機能維持には不可欠な産業である事、又、自分で作り上げる自信の持てる物づくりに喜びと誇りを見出せる仕事だという事、〝魅力ある建設業〟をもっとＰＲして地元建設業の活性化に繋げたいと思います。

最後に、この事業に対して御協力頂いた県立鶴岡工業高等学校建築科の皆様をはじめ、山形県庄内総合支庁、酒田支部青年部の皆様、本当にありがとうございました。

平成30年度 河川愛護活動事業報告

地域貢献委員会
佐藤　直

平成30年度も鶴岡支部青年部で、「山形県ふるさとの河川愛護活動支援事業」を5月30日に行いました。毎年、6月5日の大山犬祭り前に、当青年部で行っている事業であります。

毎年、打合せの段階から大山小学校の3年生の参加を視野にいれながら、すすめている事業です。今年は、近年、毛虫の発生で中止になっていることが多かったことから、庄内総合支庁の担当の方と、毛虫の発生を抑えることができないか相談してきました。しかし、除草剤も子供たちに影響が出ないとも言い切れなかったため、使用できず、中止せざるを得ませんでした。

当日は、青年部員28名で河川の草刈りを行いました。気温は少し高いものの、天候も曇りで、作業しやすい一日となりました。

草刈りの活動では、草木大きく、大変な作業でしたが、みんなで川を綺麗にしようという気持ちで草刈りを行っていました。

各自熱中症にならないように水分補給しながら、気持ちのよい汗をかくことができたと思います。同じ仲間同士、同じ目標をもって活動できることは、団結力も高まり良いことだと思います。

普段から仕事でも事故やケガなどないように気をつけているみなさんですので、河川の作業ということで足元のつまづきでの転倒によるケガなどないように充分注意しながら作業を行っていただき、ケガなどもなく活動をすることができました。

これからもケガなどしないように安全には充分気をつけて、河川の美化の活動に積極的に取り組みたいと思いました。それと同時に青年部、地域の人たちのつながりも大切にしたいと改めて思いました。

事業活動の打合せから準備とさせていただきました。なかなか、毛虫対策も難しく、小学生との活動も中止が続いています。これからは、別の方法や機会を考え、活動できればいいと思います。

最後に当事業にご協力いただきました青年部員の皆さん、関係各所の方々ありがとうございました。

平成30年度 高校生現場見学会 事業報告

企画政策委員会
佐藤　義将

本事業は、今回で26年と長年に渡り継続してきている建設業協会青年部の重点活動事業でもある「高校生現場見学会」を、9月12日に実施しました。本事業内容は、将来における建設人材確保育成の一環として、県立鶴岡工業高等学校建築科1年生を対象に、日頃の授業・実習だけでは学ぶことが出来ない実際の工事現場を見学し、今後の勉学や進路、就職に役立て貰えるよう活動する事業であります。

今年度も、鶴岡工業高等学校建築科1年生（生徒39名、引率2名、計41名）と鶴岡市部青年部員（部員22名、協会1名、計23名）で、建築▼4現場、土木▼1現場の計5現場を見学しました。

現場見学会では、各現場の現場担当者より工事概要や進捗状況等、現在行っている作業を説明して頂いた後に、予め設定していた見学順路に従って現場を見学しました。施工途中の建物の様子や、職人が実際に働いている姿に、日頃の授業・実習では学べない実際の工事現場に興味津々な様子で、後の質疑応答では、生徒達より数多くの質問が出され、現場担当者の説明に耳を傾けていました。今年度も生徒達に対し、とても貴重な体験・時間を提供できたのではないかと思います。今後もこの事業を通じて、建設業の未来を担う人材の育成に努め、より多くの生徒がこの業界に興味を抱き、将来従事されるよう事業継続していければと思います。

最後に、この事業活動に対しまして御協力頂きました県立鶴岡工業高等学校建築科の皆さまをはじめ、お忙しい中、見学現場を提供して頂きました会員会社並びに各現場担当者の皆さま、大変お世話になりました。今後とも本活動に対しまして、変わらぬ御理解と御協力の程、宜しくお願い申し上げます。また、この事業を企画して頂きました鶴岡支部青年部の役員並びに携わった部員の方々、有難うございました。

アンケート結果について

1．あなたの進路について

☆就職ですか進学ですか（回答数：39）グラフ①

●就職　28 名（71.8%）　●進学　7 名（17.9%）　●未定　4 名（10.3%）

☆就職は県内・県外どちらを希望しますか（回答数：28）グラフ②

●県内　19 名（67.9%）　●県外　9 名（32.1%）　●未定　0 名（0%）

☆どんな職業を希望しますか（回答数：19）グラフ③

●建設業　18 名（94.7%）　●建設業以外の会社員　0 名（0%）

●公務員　1 名（5.3%）　●その他（未定）　0 名（0%）

2．建設業についてどんなイメージを持っていますか

☆建設業は、地域社会の発展に貢献していると思いますか。（回答数：39 名）グラフ④

●そう思う　39 名（100%）　●そう思わない　0 名（0%）

☆建設業は、自分の能力を活かすことのできる魅力的な仕事だと思いますか（回答数：39 名）

●そう思う　37 名（94.9%）　●そう思わない　2 名（5.1%）　グラフ⑤

3．高校生現場見学会について

☆今回の高校生現場見学会は進路の参考になりましたか。（回答数：39 名）グラフ⑥

●参考になった　39 名（100%）　●参考にならなかった　0 名（0%）

4．建設会社に関する情報として、どんなことを知りたいですか

●給与　30 名　●勤務時間　27 名　●休日　23 名　●福利厚生施設　2 名　グラフ⑦

●仕事の内容　26 名　●仕事で必要な資格　34 名　●その他　0 名

5．現場見学会を終えての感想・要望

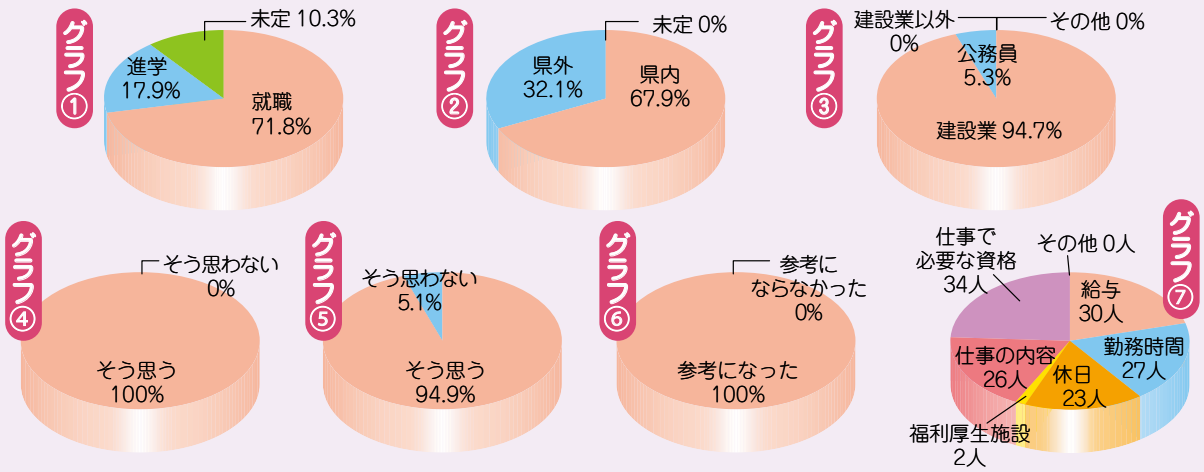
感 想

●学校では学べない貴重な体験ができた。充実した。　23 名
●建設業は地域社会の発展に貢献していると感じた。　5 名
●建設業に魅力を感じた。　17 名
●感動した・楽しかった・すごいと思った・驚いた等　33 名
●進路の参考になった。　29 名
●建設業は責任がある・大変さを感じた。　8 名

※生徒の多数は見学会開催について、感謝の気持ちを述べている。

要 望

●工事で設置している自動販売機をそのまま置いてほしい。
●女性がどのように建設業で活躍しているのか聞きたい。
●どのような作業でどのような資格が必要かを聞きたい。



平成30年度 自然体験活動事業報告

地域貢献委員会
委員長　上林　広伸

地域貢献委員会の重点事業の一環として、平成30年9月7日に「水土里ネットいなば自然体験学習」を実施しました。今年度は、藤島小学校2年生の児童及び先生方、因幡堰土地改良区、農政局の職員の方々、山大生の方々と、大勢ご参加頂きとても充実した活動となりました。

活動内容としては、藤島小学校からポケットパークまでの引率及び、魚の採取の手伝い等を行いました。当日は天候にも恵まれ、皆様のご協力のおかげで大きな怪我や事故もなく、無事に終了することが出来ました。

小学校の児童は、自分たちが住んでいる藤島地域にも色々な生物が生息していることを知り、日本古来の魚や外来種の説明にも興味を持って真剣に耳を傾けていました。この活動を通して、児童を始め、我々建設業者も周辺の環境に対して改めて考えさせられる活動になったと感じました。今後も青年部の重点事業の一環として、大勢の方とこの活動を永く継続していきたいと思います。

最後に、準備段階から当日までご協力頂きました因幡土地改良区の方々を始め関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。今後もご指導の程、宜しくお願い致します。

平成30年度 鶴岡公園ボランティア活動事業報告

地域貢献委員会
佐々木　純一

青年部地域貢献委員会では、平成30年7月24日に「鶴岡公園ボランティア活動」を実施しました。今年度で16回目となる本事業は、鶴岡市建設部都市計画課と鶴岡支部青年部を中心に主催し、鶴岡工業高校並びに鶴岡中央高校の生徒たちの御協力のもと、鶴岡公園内公衆トイレの塗装・荘内神社前参道石畳洗浄・園路整備・花壇除草・桜施肥等の活動を行う事業であります。

今年度の参加者は、鶴岡市役所5名、鶴岡支部青年部25名、鶴岡支部青年部ＯＢ2名、鶴岡工業高校39名、鶴岡中央高校36名の合計107名の参加のもと、約2時間の予定で作業を行いました。作業当日は天候も良く、怪我・熱中症に注意しながらの作業となりました。高校生達は普段使い慣れない作業用具の使い方を公園緑地係の方や青年部員たちから教えてもらいながら作業を進め、大きな怪我も無く無事に作業を終えることが出来ました。これからも鶴岡市役所と地元高校生、鶴岡支部青年部と協力し微力ながら地域に貢献していきたいとおもいます。

最後に、活動に当って準備段階から当日までご協力いただきました鶴岡市都市計画課の方々をはじめ各校並びに関係者各位に心より感謝申し上げます。今後もご指導の程、宜しくお願いいたします。

平成30年度

技術研修委員会 研修視察

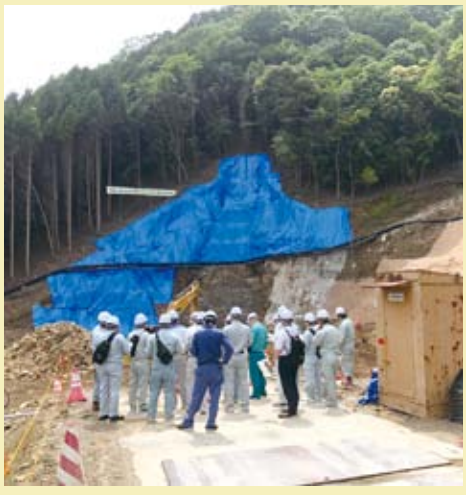
技術研修委員会
副委員長 佐藤 勝隆

毎年恒例になっている青年部の研修視察で平成26年8月に広島県広島市の阿佐北区・阿佐南区を襲った土砂災害の復旧現場へ視察に行くことができました。この災害は、記録的集中豪雨が複数個所で土石流や崖崩れを発生させ死者75名、全壊家屋179軒等甚大な被害がありました。ライフライン・インフラにも被害が及び水道やガスの供給停止、鉄道の運転見合わせ、一般道路・高速道路の通行止め等、住民生活にもたくさんの影響がありました。私達が視察に伺った時点でも仮設住宅で暮らしている方たちが大勢おり、生活再建には、まだまだ時間がかかることが容易に想像できました。

現地の工事現場視察では、災害直後から被災地に入り工事に携わっている方から案内していただきお話を伺うことができました。

最も被害の大きかった阿佐南区の砂防築堤工事では、現地発生土を有効活用でき、環境にも配慮した砂防ソイルセメントＩＮＳＥＭ工法を紹介していただきました。この工法は、施工現場内で発生した土砂とセメントと水を撹拌・混合し、ブルドーザー・振動ローラーで敷均し・締固めて砂防堰堤を建設する方法です。従来のコンクリート工法と比較した場合、発生土の運搬処分費用のコストカットはもちろん安全性の向上、資源循環型社会への寄与のメリットがあります。盛土工と比較した場合には、強度増加・安心度の向上、断面縮小等のメリットがあります。また、この現場は、人家と隣接しているため大型車両の通行量を低減させ、騒音・振動を軽減させることで地域住民の生活環境にも配慮した素晴らしい工法でした。

建設業に携わる者として、今回の視察も大変意義のあるものとなり、安心して暮らせる街づくりを担う社会的使命を再確認することができました。これからもインフラストラクチャの整備を支えると共に地球環境の保全や災害を未然に防ぐ工事を通して国民の安全を守っていく仕事にプライドを持ち取り組んでいく決意を新たにすることができました。



平成30年度 総務交流委員会 事業報告

総務交流委員会
委員長 加藤 大介

総務交流委員会は青年部の基本方針の1つである『会員相互の信頼関係を構築できる親睦交流を行う。』を目的に30年度も、定時総会並びに歓送迎会、酒田支部との交流会、臨時総会並びに新年会等の重点事業や、その他各種交流事業を開催しました。

年度初めの4月に定時総会並びに歓送迎会を会員企業31社中31社＋卒業生3社の計34名の全員参加にて開催しました。誰一人欠けることなく全員参加で開催できたことは各会員の青年部活動に対する熱意と意識の高さの表れだと思い、30年度も一致団結して活動していく決意を確認する最高のスタートになりました。

11月には10年以上にわたり継続開催している酒田支部青年部との交流会を鶴岡会場にて鶴岡支部20名、酒田支部7名の参加で開催しました。各自、有意義な意見交換、情報交換を行い、情報収集や見識を広めることが出来ました。

年度末近くの2月には臨時総会並びに新年会を開催しました。来年度の役員選出、組織図の作成、事業計画等についての審議を行いました。時期的にインフルエンザ等も流行しており1名欠席でしたが、多くの熱意ある会員の参加を得ることが出来ました。

30年度も会員の青年部活動への参加率が非常に高く、『会員相互の信頼関係を構築できる親睦交流を行う。』の基本方針のもと有意義な交流が出来ました。今後も更なる信頼関係の構築が出来る交流を企画、開催することにより、青年部組織の更なる強化を図り、建設業全体の発展に繋げていきたいと思います。

平成30年度 就職支援講座 しごとセミナー2019 事業報告

企画政策委員会
斎藤 直樹

鶴岡市公益財団法人庄内地域産業センター主催による、地元企業6業者（福祉・建設・宿泊・縫製・販売・製造）による、就職活動の本格的な実施を目前に控えた高校2年生を対象に自身の将来像について具体的に考える機会及び地元企業ならではの魅力や重要性など職業志向の向上に繋がることを目的した、職業支援しごとセミナー2019に青年部より建設業のしごとについて発表させていただきました。

近年の建設業は、ICT・AIなどのデジタル革命や働き方改革により、建設業がより働きやすく、より安全な仕事に変化しつつあることを発信しました。

4回目の参加となる今回は、建設業の仕事内容や魅力はもちろん、建設業界のみならず地元就職と県外就職の理想と現実といった先生や友達などからは聞けない、社会にでてからの苦労や挫折、その体験から得ることができた達成感などの体験談についても発表させていただきました。

最後に、今回のセミナーが建設業に感心・興味を持つきっかけとなり、更には就職活動の決め手になることを願っております。

平成30年度 会員勉強会事業報告

技術研修委員会
委員長　佐藤　武蔵

平成30年12月12日、ホテルメトロポリタン山形において、山形県建設業協会青年部連絡協議会会員勉強会が行われ、当鶴岡支部からは9名が参加しました。

今回の会員勉強会の講師として、株式会社シエーナ　代表取締役　社会保険労務士　吉川直子氏を迎え、「働き方改革の為の組織力を高めるコミュニケーションセミナー」と題して講演をしていただきました。

「働き方改革」は政府の重要政策のひとつに位置づけられていて、多様な働き方を可能にする社会を目指しています。

日本の人口は２００８年をピークに減少に転じています。人口が減れば、労働力不足となります。この労働力不足を解消させる為、働き手を増やし、出生率を上昇させ、労働生産性を向上させる必要があります。これを実施させようとする重要な政策です。

この度は働き方改革の組織力を高める為にはアサーティブコミュニケーションが大切だと学びました。これは自分の意見を誠実かつ素直に表現しつつ、その意見を強引に押し通すのではなく、相手の意見も尊重する方法です。

それにはコミュニケーション・スキルをアップさせる必要があり、それらについても丁寧に説明していただきました。

普段は中々、聞くことの出来ない貴重な勉強会であり、今後、青年部会員一同この経験を生かして活動していきたいと思います。

平成30年度 卒業の言葉

青年部ありがとう

笠原建設工業㈱
冨田　富朗

平成24年に入会し青年部員としての活動を7年間務めさせていただきました。入会当初は、何をするのかも分からず戸惑い不安も多くありましたが、まず、すべての青年部の活動に参加することを目標に努めてきました、会員皆様方も通常業務のお忙しい中、青年部活動に常に多数の部員が参加する大変活気のある活動であったと思います。

近年若手就業者の減少、職人の高齢化、技術者不足と肌で感じるほど建設業界も厳しい状況にあると思われます。青年部活動の高校生現場見学会や地域貢献、ボランティア活動など様々な活動は、若い人達に少しでも興味を持ってもらい未来のために繋いで行けるものであってほしいと願う次第です。そのためにも、青年部の活動が一役買っているのではないでしょうか、部員皆様の力を合わせ、更なる建設業界の向上発展、若手就業率の向上に繋がるよう願っております。

自分にとって、青年部皆様との交流は大変貴重な経験と財産になると思っております、青年部から離れますが建設業界の盛り上げの一員として今後とも末永いお付き合いよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、7年間と長いようであっという間の時間でしたが大変お世話になりました、今後の青年部活動の繁栄と皆様方の益々のご活躍を心よりご期待しております。

卒業にあたり

十和建設㈱
石川　直

平成25年から入部し早くて6年の歳月が過ぎ、早いものでこの度青年部を卒業となります。入部当時は右も左の分からない状況で仕事の合間を調整しながら活動に参加した覚えがあります、とても良い経験でした。自分が青年部に入り一番感じたことは同じ業界で同じ年代の方々とお会いでき活動を通して親睦を深められた事や仕事での付き合いが深められたことがとても有難かったことで今でも皆様との出会いは自分にとっても財産になりました。青年部において、ボランティア活動や若手就業促進事業などの活動に部員の皆様と一緒に携われたことがとても勉強になり今後の建設業としての在り方を考えさせられた事業に参加できたことがとても有難かったです。最後になりますが、これまでご協力いただきました関係各位に対し感謝申し上げるとともに、建設業協会青年部の益々の発展を切に願い卒業の挨拶に代えさせて頂きます。

卒業の言葉

安藤建設㈱
安藤　秀正

平成27年度に入部させていただいてから、早いもので4年が経ちこの度卒業することになりました。4年間という長いようで短い期間ではありましたが、青年部の活動を通して様々な方々と交流することができた事は自分自身のスキルアップに繋がったと思います。

青年部は会員相互の連携と親睦を図りながら、地域社会に認められる魅力ある建設産業を目指し、会員一丸となって活動していると思います。特に地域づくりの担い手としてボランティア活動や就職促進事業を積極的に活動するとともに、青年部ならではの発想と行動力を持ち合わせ今後も邁進していただきたいと思います。

最後になりますが、この青年部に在籍し培った経験を無駄にすることなく建設業界を微力ながら盛り上げていければと思います。

青年部の今後益々の発展と活躍を心より期待して卒業の言葉といたします。

青年部活動を振り返って

㈱佐藤組
渡部　和典

短い期間ではありましたが、いままで経験したことのない活動に参加できたこと自身のスキルアップに繋がった期間だったと思います。入部初めは不安でいっぱいでしたが青年部会員のみなさまのおかげで有意義に実のある活動ができたと思います。

地元の同業種が一致団結して地域貢献、技術研修、就業促進などさまざまな活動を通し、青年部の親睦はもちろん地域の方々や他支部との交流・密着ができたこと。中でも高校生を対象にした現場見学会や就業促進事業などはこれからの将来、建設業が進展・発展していくためにも大切な事業だと思いました。この事業がきっかけで若者が少しでも建設業に興味をもってくれるそんな青年部の活動。今後もより一層のご活躍を期待いたします。

青年部のご活躍は、これからの『かわら版』などで楽しみにしています。

本当にお世話になり、ありがとうございました。

令和元年度　入部の言葉

青年部入部にあたってのご挨拶

笠原建設工業㈱
佐藤　慎也

今年度より建設業協会鶴岡支部青年部に入部させて頂く事になりました笠原建設工業株式会社の佐藤慎也と申します。私は高等学校卒業後から25年間当社で主に土木工事に携わって参りました。その中で個々に他社の方々と一緒になる機会はありましたが、今回青年部という組織の一員とさせて頂き、同業者の世代の近い皆様方とともに地元建設業の発展のための活動や、地域貢献活動等に参加させて頂く事となり非常に嬉しく思います。また、その一方で具体的な活動内容については理解できておらず、皆様方の足を引っ張る事にならないかとの不安もありました。そんな中、4月の定時総会に参加させて頂いた際は、部員の皆様方が一致団結し、非常に良い雰囲気のなかで活動されている姿を拝見させていただき、自分も積極的に活動に参加させて頂きながら少しでも早く力になりたいと感じた所であります。まだ何も分かりませんが、皆様どうぞ宜しくお願いいたします。

青年部入部にあたり

十和建設㈱
菅原　元

今年度より建設業協会鶴岡支部青年部に入部することになりました。何卒宜しくお願い致します。先日の定時総会に参加させていただき、青年部の活動は重要な役割を担っているように感じました。

私は高校を卒業してからすぐ弊社に入社し、20年ほど土木工事で建設業にたずさわってまいりましたが、現場での業務を日々行ってきたので、他社の人たちとの交流もあまりありませんでしたが、これからは青年部の活動を通して他社の方々と交流する機会も増えるのでとても楽しみです。

近年、建設産業においては、時代の移り変わりとともに、担い手の確保が課題となっている現状です。今年度は、企画政策委員会に配属となり、活動内容の高校生への建設業就業促進事業、建設現場見学会などこれからの時代を担っていく若者に建設業の魅力を発信できるよう微力ではありますが、貢献できるように頑張っていきたいと思います。

入部にあたり、わからないことも多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、できる限り沢山の活動

に参加し、諸先輩方からのご指導を受けながら勉強をさせていただきたいと思いますのでどうぞ宜しくお願い致します。

青年部入部の言葉

安藤建設㈱
板垣　敬一郎

今年度より建設業協会青年部に入部させていただくことになりました、安藤建設㈱板垣敬一郎です。

あらためまして、よろしくお願い致します。

入部前、実は活動内容等を知らず少々不安でしたが、先日定例総会に参加させて頂き、様々な活動をしていることを知り、また青年部内の結束力、なにより楽しみながら活動している明るい雰囲気が感じられ私自身もその一員になる事が楽しみになりました。

活動や交流を通じ、今まで無かった知識や経験が増えることによりスキルアップが図れるよう努めたいと思います。

最後に、建設業のイメージアップ、地域貢献また、青年部の発展の為微力ではございますが、精一杯頑張りますのでご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

青年部入部にあたり

㈱佐藤組
皆川　良香

今年度より建設業協会青年部に入部させて頂くことになりました株式会社佐藤組の皆川良香と申します。青年部の活動について社内で回覧される「かわら版」を拝見する程度でした。4月に行われた定時総会で活動内容の多さに改めて驚き、これから諸先輩方と一緒に活動できることを大変うれしく感じました。

土木工事に携わって30年弱、同業者の方々と接する機会が少なく不安もありますが、青年部の活動を通じて多くの方々と交流でき情報交換をすることでスキルアップを図りたいです。

青年部では、地域貢献委員会に配属になり、河川愛護活動、ボランティア等社会に貢献できる内容でしたので建設業界のイメージアップに繋げるよう積極的に活動に参加し、活動を通じ人との繋がりを大切にして頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

青年部入部にあたり

㈱大栄
冨樫　徹

今年度より建設業協会鶴岡支部青年部に入部させていただくことになりました、㈱大栄の冨樫徹と申します。

定時総会での活動報告を拝見し、様々な活動を行っていることを知り、私も可能な限り、行事・ボランティア活動に参加し、諸先輩方との交流を深め、様々な情報交換等もできればと思います。

これからどうぞよろしくお願い致します。

青年部入部にあたり

㈱山本組
齋藤　隆広

この度、山形県建設業協会鶴岡支部青年部に入部させていただくことになりました株式会社山本組の齋藤隆広と申します。

近年、建設業界を取り巻く環境が変化しています。例えば、i-Construction、週休2日制キャリアアップシステム、外国人労働者の受け入れ等ですが、聞きかじったことしか分かりません。この新しい流れに取り残されないためにも、会員相互の親睦を深め、情報交換をさせていただく所存です。

私が建設業界に携わってからですが、自然災害が多く発生しております。国民の安全・安心を守る社会資本整備に係わるこの業界は必要とされています。担い手の確保の為、若い世代がこの業界に魅力を感じてもらえるよう、青年部の活動で発信していきたいです。

最後に、青年部の一員として、業界の発展や地域社会の躍進に貢献していきたいと思いますので、ご指導ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

青年部入部の言葉

㈱ナカムラ
栗本　司

今年度6月より新規入部いたしました株式会社ナカムラの栗本と申します。

私は建設業に従事して20年を経ておりますが専門業ということもありましてまだまだ知識が不足なことが多々ありますので、諸先輩方や同年代の方々などからは更なるご指導ご鞭撻ほどを宜しくお願い致します。

また青年部の輪の中に入れていただき様々な時代に合った情報交換などができ自分自身のスキルアップもできればと期待しております、青年部の活動にはこれから積極的に参加させていただき交流を深め背年部の活動はどのようなものがあるのかまだあまり把握しておりませんが微力ながらも建設業の明るい未来に協力できることを望んでおります。

精一杯頑張ってまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

現場紹介

鶴岡工業高校体育館 改築工事

㈱佐藤工務
建築部次長
石川　英樹

本工事は、昭和三十八年竣工し築五十五年となる、旧体育館の老朽化並びに耐震強度不足を解消する為に、新体育館を建設するもので、旧体育館を使用しながらの工事であった。

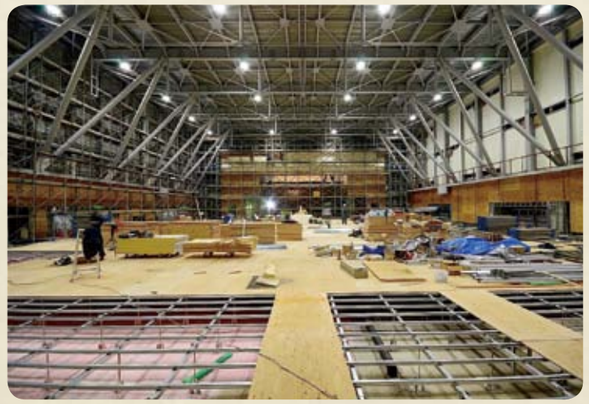
多くの卒業生を地元建設企業に輩出している我母校の工事を、名立たる諸先輩方が大勢いる中で、自分に担当を拝命頂けたことを大変光栄に思い、業務に従事遂行致しました。

新体育館は学校グラウンド内に、お隣の鶴岡南高校さんの同窓会館と並列する配置とされ、建物の概要は、旧体育館同様一階にピロティ式グラウンドを配し、同じく一階のワンルームに柔道場・剣道場と卓球コートがまとめられ、その他に単独室のトレーニングルームを擁しています。そして二階に体育競技場空間（アリーナ）があり、南北面外壁の広範囲に設けられているカーテンウォールとガラスに因って、開放的且つ軽快なとても明るい空間となっており、設計者の拘りや思想が色濃く反映されている建物に仕上がっています。

主な工事期間となった平成三十年は、全国的な業界の繁忙期と重なりましたが、主に庄内の企業を中心に約八十社から、延べ一万一千人に上る職人さんを送り出して頂きました。中でも鉄骨工事に於いてこの地域では希少な張弦梁工法を、山梨・北九州・岐阜の専門業者さんから御出で願い、そして外壁工事では、北海道・秋田・埼玉・庄内からと、県内外問わず多くの協力を仰ぐことが出来ております。

また、鶴工高定時制の生徒さんや、協会青年部主催の鶴工高建築科一・二年生現場見学会を始め、構造設計者グループ・山形県建築専門職員の構造見学会等、多くの方から現場をご覧頂き、注目の高さを実感した次第です。

様々な世の情勢が、建設業界に大きな影響を及ぼしている昨今ではありますが、多くの皆様の惜しみないお力添えにより、無事に円滑な現場運営が出来ましたこと、この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



令和元年度　山形県建設業協会 鶴岡支部青年部 組織図

監　事
㈱山口工務店　山口　朝穂

部　長
有賀建設㈱　菅原　武士

顧　問
㈱浅賀建設　支部長　浅賀　隆

事　務　局
㈱鈴木工務店　事務局長　阿部　和弥

会計の統括・予算管理
役員会の開催
事務全般

県青年部連絡協議会
役員　有賀建設㈱　菅原　武士
㈱山田工務店　山田　和博
小野寺建設㈱　五十嵐大輔
（企画政策委員会）
小野寺建設㈱　五十嵐大輔
㈱鈴木工務店　阿部　和弥

政策グループ　副　部　長
小野寺建設㈱　五十嵐大輔

研修グループ　副　部　長
㈱山田工務店　山田　和博

企画政策委員会
委員長　㈱土岐工務店　土岐　正行
副委員長　佐藤建設㈱　佐藤　義将
菅原建設㈱　佐藤　渉
㈱王祇建設　斎藤　直樹
㈱大栄　冨樫　徹
十和建設㈱　菅原　元
安藤建設㈱　板垣敬一郎
㈱ナカムラ　栗本　司

高校生現場見学会
高校生建設業就業促進事業
しごとセミナー

地域貢献委員会
委員長　㈱工藤建設　上林　広伸
副委員長　㈱狩川佐藤組　田中　実
㈱三浦土建　佐藤　直
㈱丸元建設　佐々木純一
㈱菅興業　菅　健太
㈱伊藤組　吉田　剛
㈱佐藤組　皆川　良香

河川愛護活動
鶴岡公園ボランティア
水土里ネットいなば

技術研修委員会
委員長　田川砂利工業㈱　佐藤　武蔵
副委員長　㈲誠朋建設　加藤　大介
菅睦建設㈱　安藤　将士
㈱浅賀建設　佐藤　敬
㈱石庄建設　佐藤　吉史
笠原建設工業㈱　佐藤　慎也

広報誌「かわら版」発行
研修視察
県連絡協議会の対応
技術フォーラムの支援

総務交流委員会
委員長　㈲日本海重機建設　佐藤　勝隆
副委員長　㈱佐藤工務　佐藤　友介
㈱菅原工務店　小原　康弘
鶴岡建設㈱　本間　拓也
佐竹建設㈱　榎木　晴紀
㈱山本組　齋藤　隆広

定時総会・歓送迎会
酒田支部との交流会
臨時総会・新年会
ＷＥＢページの管理、更新

会員名簿一覧32社

㈱山本組	㈱山田工務店	㈱山口工務店	㈱三浦土建	㈱丸元建設	㈲日本海重機建設	㈱ナカムラ	㈱土岐工務店	十和建設㈱	鶴岡建設㈱	田川砂利工業㈱	㈱大栄	㈱石庄建設	㈱誠朋建設	㈱鈴木工務店	㈱菅原工務店	菅原建設㈱	菅睦建設㈱	㈱菅興業	㈱佐藤工務	佐藤建設㈱	㈱佐藤組	㈱佐竹建設	㈱工藤建設	㈱狩川佐藤組	笠原建設工業㈱	小野寺建設㈱	㈱王祇建設	㈱伊藤組	安藤建設㈱	有賀建設㈱	㈱浅賀建設
齋藤隆広	山田和博	山口朝穂	佐藤直一	佐々木純一	佐藤勝隆	栗本司	土岐正行	菅原元	本間拓也	佐藤武蔵	冨樫徹	佐藤吉史	加藤大介	阿部和弥	小原康弘	佐藤将士	佐藤友介	菅健太	佐藤友介	佐藤義将	皆川良香	榎木晴紀	上林広伸	田中実	佐藤慎也	五十嵐大輔	斎藤直樹	吉田剛	板垣敬一郎	菅原武士	佐藤敬

●発行日　令和元年7月1日　●発行責任者　青年部長　菅原　武士／技術研修委員長　佐藤　武蔵　●住所　山形県鶴岡市茅原字西茅原16　TEL(0235)22-2364　FAX(0235)22-2289